

河東けい ひとり語り

母

— 多喜二の母 —

原作：三浦綾子

脚本・演出：ふじたあさや

もっしー度だっつて見せなか！

ほれっ！

多喜二！



2019年4月13日(土) 15時開演(開場30分前・終演 16時半)

会場：神戸YWCA会館5Fチャペル 定員60人(地図裏面)

料金：前売 2000円(当日2500円) 障がい者・高校生以下 1000円

主催：神戸芝居カーニバル実行委員会

共催：神戸YWCA 平和活動部

チケット予約・問合せ：090-1914-4907(神戸芝居カーニバル実行委員会)

078-231-6201(神戸YWCA)

多喜二の母 セキを超える九十三歳

河東けい ひとり語り

母



昭和八年（一九三三）、言語・思想の弾圧の嵐が

プロレタリア文学運動に向けられた。

作家 小林多喜二は、その犠牲となった。

“ほれっ！多喜二！もう一度立って見せな！”と

息子に頼り寄せて叫んだ母、セキ。

明治の初め東北に生まれ、十三歳にして嫁ぎ、

夫に先立たれながらも5人の子どもを育て、

多喜二を心から信じて温かく見守りつづけた

母 小林セキの生涯を描いた三浦綾子の代表作「母」を、

河東けいが渾身の語りで舞台に描き出します。

河東けいさんの青春時代は戦時下だった。

「自由なんてなかった時代。信じていたものがすべて敗戦で

ひっくり返った。繰り返してはいけないと思いが、

私の演劇活動や「母」の舞台の根底にある」と語る。

今の時代だからこそ多くの人に観、聴いてもらいたい。

<河東けいプロフィール>

1952年より大阪において演劇活動に入り、関西芸術座の創立メンバーとして現在に至る。舞台、テレビ、ラジオ、映画、朗読など多方面で活躍。特にギブソン作「奇跡の人」では、教師アニー・サリバンを演じて600回以上の上演。演出家としても、サルトル、ふじたあさや、山崎正和など国内外の戯曲に取り組む。1993年ひとり芝居「母」を初演。韓国、中国をはじめ各地の公演で高い評価を受け、自身ライフワークとする。

1958年 大阪日日新聞新劇女優演技賞をはじめ数々の賞を受賞される。

1993年 一人芝居「母」で大阪府民劇場奨励賞

2003年 大阪市文化功労賞（市民表彰）

2004年 神戸市文化活動功労賞

2008年 文化庁芸術テレビ部門大賞受賞作品・ヒューマンドキュメンタリー「いのちの記憶小林多喜二・29年の人生」（北海道放送制作）の中心として、多喜二の母を演じる。

2013年 大阪新劇フェスティバル40周年記念 特別功労賞・

2015年 神戸アートアワーズ 大賞受賞

チケット予約・問合せ：

090-1914-4907(神戸芝居カーニバル実行委員会)

078-231-6201(神戸YWCA)

